（本號八面）　（明治廿五年一月十日　郵便信書認可）　明治二十七年四月十二日　第三千九百三十九號　（定價金二錢五厘）

時事新報

明治廿七年四月十一日　水曜日（癸未）
舊暦甲午三月六日
日出午前五時十六分　日入午後六時九分
月出午前八時二十九分　月入午後八時五十分
（西暦一千八百九十四年）百一日
年始より　二百六十四日
年末まで

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

第二五月附錄

府下十二名家の揮毫を石版に印刷し毎月附錄として配布する其第一回は已に時事新報の愛讀者に送達せり第二回の附錄は來る五月初旬を期して之を發行す其畫題並に畫家は

挿秧　松岡壽氏

にして田植の時節、田家の光景は宛然此畫中に集り質樸なる農家の少女が挿秧に忙しき狀態、寫し出して眞景を見るが如くなるべし

時事新報

東京に於ける商品取引所

取引所法は昨年十月一日より實施せられて既に其筋の許可を得て設立したるもの少なからず本來法の精神に從へば許可の權は政府に在るが故に自由に許すと然らざるとは一に當局者の手心に存して其手心の如何に由りては實際の結果に大なる相違あるみとなれども現に各地より續々の請願は容易に許されて續々設立の運びに至るを見れば當局者の手心は其た自由にして毫も干渉の意味を含まざるの方針なるが如し元來政府が商賣の事に干渉して漫に手心を用ゆるが如きは愚の至りにして實際無益の勢に過ぎず既に法律の規定ある上は其規定に背かざる限り人民の自由に任ずるみと至當の處置にして我輩に於ても此方針には同意なれども獨り帝國の首府たる東京府下に於てのみ未だ設立の運びに至るみと能はざるは事の當を得たるものと云ふ可らず各地方は申す迄もなく現に横濱の如きも既に許可を得て昨今開業の用意中なるに然るに商賣取引の繁昌全國の首位を占めて最も取引所の必要を感ずる東京に於て其運びに至らずと云ふ其た不審なれども東京の商人決して其事に冷淡なるに非ず昨年中既に請願の企はありたるみとなれども其請願者に二樣の黨派を生じ一は砂糖木綿、綿絲、棉花、油、蠟、肥料、金屬、雜穀の九品を取引商品となし右各品問屋の一類が團結したるものにて之を實業派と稱し他の一方は棉花、油、蠟の三品にして其發起者中には平素是等の商賣に關係なき人も多きよりして紳士派の名あり扨双方より願書を差出したるに双方とも棉花、油、蠟の三品あるが故に恰も衝突の姿を成し孰れとも決し難しとて當局者に於て双方の願書を却下したる其理由は同種の物件を賣買する取引所は一地區内、一個所に隣るべきの法の明文に據りたるものゝよしなるが本來請願の許否は當局者の權内に存するみとなれば双方の申いづれか適當と認ひるものに許可を與へ一日も早く設立を伺せしむるみを至當の處置なれども蓋し當局者の考に於ては政府の眼識を以て其撰擇を爲すときは或は世間の非難を招くの掛念もあらんかと表面に願書を却下しながら裡面には双方の調和合同を試みて事の圓滑を望みたるみとならん例の政府の手段として怪しむに足らざれども之が爲めに双方ともに計畫を中止して今日まで未着手の場合に至らず恰も法の明文の爲めに其法の實施を妨げられたるの觀を呈したるみを奇態なれ我輩の如きも其當時に於ては只管取引所の設立を急ぐの一點よりして孰れなりとも最も適當したるものを選んで斷じて許可すべきを勸告したれども熟々思ふに所謂實業派なり紳士派なり孰れも商賣に無心なる者にして或は紳士派の如き其中には實際商賣に關係なきものも多しとは云へども只直接に取引に從事せずと云ふまでにして實際商賣上に利害を感ずるの一點は實業派の人々に比して異なる所なかるべし即ち雙方共に商人たるの資格に於て甲乙なきは無論、東京府下の如き商賣取引の盛なる場所に一個所の取引所のみにては迚も其用を全ふするに足らざるのみか寧ろ之が爲めに商賣社會の運動を澁滯せしむるに過ぎざれば當局者に於ても大に從來の所見を改め實業派と云はず紳士派と云はず其出願に任せて許可するは勿論、尚ほ今後出願するものあらば二個所にても自由に設立せしむるみと適當なる可し扨東京府下に幾個所の設立を許すに就ては同種の物件を賣買取引する取引所は一地區内、一個所に限り設立するみとを得云々とある法文を如何す可きやと云ふに本來其地區なるものは商賣の繁閑、人口の多少を標準として定む可きものにて東京の如き決して一地區と見做す可らざる其理由は例へば國會議員の撰擧法に據れば横濱の如き一區なれども東京は現に九區に分ち即ち東京の人口は横濱に九倍するの割合にして商賣の繁昌も其割合に比例するものと見て差支なかる可し然るに取引所の設立に就ては人口商賣共に九倍せる東京を横濱と同一に見て等しく一地區なるが故に取引所も亦一個所に限る可しとは事實に於て許さゞるみとなる可し更に一歩を進めて云へば岐阜と大垣との如き又濱松と豐橋との如きの兩地相合するも迚も東京市内の一區に及ばざるみとなれども尚ほ且一地區と認めて其の〳〵取引所の設立を許したるに非ずや左れば東京の如き一地區と見做す可らざるは無論にして假令撰擧區の如くならざるも之を數區に分て其一區を所謂一地區と見做も取引所の設置を許可するみと適當なる可し

官報

○勅令

朕在外各廳ニ於テ隨意契約ニ依リ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ爲スノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十七年四月九日

大藏大臣　渡邊國武

勅令第四十號

在外各廳ニ於テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ爲ストキハ隨意ノ契約ニ依ルコトヲ得

○大藏省告示第十四號

本月五日大坂本金庫所屬堺支金庫ヲ堺市櫛屋町東二丁ヘ移ス

明治二十七年四月十日　大藏大臣　渡邊國武

○通信貿易會所第九十四號

本年（三月）通信貿易會所第八十號ヲ以テ北海道樺太國茂喜納沙布崎經緯ノ曲射坡環境損ノ爲メ電信用ロスレテ無火セル旨及告示最候通本月九日ノ夜ヨリ從前ノ通範圍等不動白色ノ燈明ヲ點ス

但明滅ハ左ノ通變更セリ

明治二十七年四月十日　通信大臣　伯爵黑田清隆

一眞方位北七十四度三十分西ヨリ南十五度三十分西マテ二百七十度間ニレテ內南二十一度十分東ヨリ南十五度三十分西マテ三十六度間十分間ハ紅光ヲ以テ箱眼鏡ヲ用ス

右方位ハ經驗ヨリ測定ス

○第二豫備金支出

明治二十七年度第二豫備金支出

第一回

一金十萬八千四百六十一圓十九錢六厘　横濱築港工事補充費

一金四千四百九圓三十三錢四厘　諸官衙及議院建築費

一金七千四百五十八圓　鐵道線路調査補充費

一金六百八十六圓二十錢　水害土木費補助實地檢査旅費

一金八千五百八十三圓三十五錢　貨幣制度調査會費

横濱築港並諸官衙建築ハ該工事未タ竣工ニ至ラス明治二十七年度以降尚繼續施工ノ必要之アリ內務大臣ヨリ又全國鐵道線路調査ハ前年度着手ノ調査ヲ繼續スルノ必要之アリ遞信大臣ヨリ支出ノ儀請求アリ本大臣同意ヲ表シ又會計檢査院ニ於テ前年度未着手ノ本水害土木費補助實地檢査ノ爲メ旅費ノ支出ヲ要シ又明治二十六年勅令第百十三號貨幣制度調査會規則ニ依リ着手ノ貨幣問題ノ調査ハ未タ結了ニ至ラス明治二十七年度ニ於テ繼續調査ノ爲メ之カ經費ノ支出ヲ要シ前記ノ金額明治二十七年度第二豫備金ヨリ支出ノ儀ヲ上奏シ去月二十九日及本月七日勅裁ヲ經タリ

明治二十七年四月十日

大藏大臣　渡邊國武

官設鐵道用品資金支出

一金二百二十九萬八千四百七十九圓七十五錢　官設鐵道用品資

明治二十七年度ヨリ官設鐵道用品資金會計法施行ノ結果ニ因リ同年度官設鐵道用品資金特別會計ノ歳出トシテ本行ノ金額該特別會計ノ歳入ヲ以テ支出ノ儀遞信大臣ヨリ請求有之右去月二十三日勅裁ヲ經タリ

明治二十七年四月十日

大藏大臣　渡邊國武

雜報

○濠洲の不景氣　は近頃餘程甚しく且餘程困難するもの〳〵如し同地よりの諸報を見るに各都會にては押入强盜絶間なく巡査も制する能はず逃走捕はれたる者の白狀は皆同一樣に貧苦に迫りて無據亂暴に及びたりと云ひシドニー府にては巡査と强盜と爭鬪して死したるものの少からず又或る日府立病院の看護婦は大勢申合せ院内の目星きものを悉く奪ひ去り某製造會社は職工の爲めに五萬弗を奪ひ去られ某商人も雇人の爲め巨額の金を奪はれ若き婦人三名連合も種々の僞手段を製して首尾能く金を引出したるもあり郵便局の書記は二百弗の官金を騙取せり又政府は無職業者を保護するの工風なきに苦するもの〳〵如くシドニー府にては五百人の貧民を養ふ爲め毎週五百弗を費し南部濠洲にては五千人の連名にて彼等の保護法を議せん爲め臨時議會の開會を嘆願し聞届けなかりしを以て今度は總理大臣へ直接に請願するなど至る所騷々しく血を流すみども少からず多少名の聞えたる商人紳士貴女と稱するものにして自殺するものは殆んど擧げて數ふべからず貧民は數千人皆野宿して只だ餓死を待つ有樣なりと

○在米日本人の自殺　米國ミシガン州デトロイト市に於てスターンス氏所有の藥品製造所に從事する友平近業氏は去る三月一日夜毒藥を服して死去したり尤も直ちに死に至らず同夜二時頃苦ひ藥を開付けしものありて下宿屋一家の騷ぎ種手當したれども遂に及ばざれたるもの〳〵由氏は四年前時本邦へ漫遊の爲め渡米せ狀を持參せし内に友平氏の友平氏一家の間に愁訴を聞きて連れ歸りしもの

○參謀演習の統裁　は近衛師團參謀長演習旅行卒十六名を醫へ一昨日より出張したるよし

○外國獵船乘組員の　ベル號は去三月二十八日地を距る二百五十海里最近沖合にて漁獵中乘組員なる（三十二名）獨逸人ヘルマンツチーヨウランダー（廿二）居り遂に本船を見捨ひ五日し同地警察署の救助に依へ送られ夫より所屬の領海豹皮三枚銃二挺は有稅品りと云ふ

○居留地茶商の歸港　り來りしより外商中本國へ渡航し居りしもの〳〵追め渡航し居りしもの〳〵追日桑港より横濱へ入港せ五十番館茶方ワエル氏二したりと云ふ

○華族の卒去　岐阜の業父正四位遠山友祿氏

○高崎の野外大運動　人々は來る十五日高崎市し非內地雜居及屬行論の同志に招待狀を發したる大井元田等の諸氏も臨場

○帝國大學端艇競漕　闘く由又臨場者の數は四來る十四日午後一時より漕會を催す尤も當日雨天

○日本銀行員端艇競　員は來る十五日隅田川上但し當日又は前日雨天

○端艇競漕會　第一十六日（雨天順延）午前九競漕會を催ほすよし

○頌榮女學校の卒業　校にては去る七日高等女授與式を擧げしに同地方多く元來同校は英文漢學りしも昨年末より裁縫科しかば好結果を得たりと

○勝山炭坑の開坑式　の東一里餘の山腹にある有にして先年來採掘に着る三日を以て開坑式を擧春先きの事にて見物人下參車官臨場し飯る盛式